

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 62-281032

(43)Date of publication of application : 05.12.1987

(51)Int.Cl.

G06F 9/06

G06F 12/00

(21)Application number : 61-125390

(71)Applicant : PFU LTD
KANSAI PANAFUAKOMU KK

(22)Date of filing : 30.05.1986

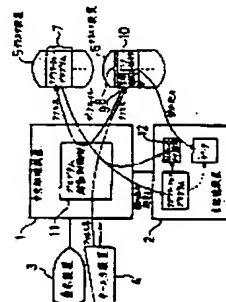
(72)Inventor : YOKOI SHIGEKI
MIYAZAKI YOSHIFUMI

(54) PROGRAM START UP SYSTEM

(57)Abstract:

PURPOSE: To set a data processing system so as to be easily used even by a beginner, by constituting the system so that the start up of an application program, and the read-in of the data can be performed automatically based on the input of a file name.

CONSTITUTION: A program start up control part 11 retrieves a disk device 6 by inputting the file name from a key input device 4 by a user, and detects a data file 8 having the same file name at a management information part 9. Next, the bit of classified information of the application program included in the management information part 9 is taken out, and a corresponding application program 7 is read from a disk device 5 by a main storage device 2. Therefore, only by performing an operation to input the file name by a user, hereinafter, a required application program is read in and started up at a system side, and next, the application program started up reads the data to be processed. In this way, a load on the user can be reduced.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

⑩ 日本国特許庁(JP)

⑪ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報(A)

昭62-281032

⑬ Int.Cl.⁴

G 06 F 9/06
12/00

識別記号

3 1 0
3 0 1

庁内整理番号

C-7361-5B
6711-5B

⑭ 公開 昭和62年(1987)12月5日

審査請求 有 発明の数 1 (全5頁)

⑮ 発明の名称 プログラム起動方式

⑯ 特 願 昭61-125390

⑰ 出 願 昭61(1986)5月30日

⑱ 発 明 者 横 井 茂 樹

⑲ 発 明 者 宮 崎 好 史

大和市深見西4丁目2番49号 バナファコム株式会社内
大阪市北区堂島1丁目5番17号 関西バナファコム株式会
社内

⑳ 出 願 人 バナファコム株式会社

㉑ 出 願 人 関西バナファコム株式
会社

大和市深見西4丁目2番49号
大阪市北区堂島1丁目5番17号

㉒ 代 理 人 弁理士 長谷川 文廣 外1名

明 細 書

1. 発明の名称

プログラム起動方式

2. 特許請求の範囲

データファイル(8)と、そのデータファイル(8)を使用して処理を行なうアプリケーションプログラム(7)とを有するデータ処理システムにおいて、

上記データファイル(8)を、ファイル名および上記アプリケーションプログラム(7)の識別情報を含む管理情報部(9)とデータ本体部(10)とで構成し、さらにプログラム起動制御部(11)を設け、

プログラム起動制御部(11)は、データファイル(8)のファイル名を指定して起動要求が行なわれたとき、そのファイル名を管理情報部(9)中に含むデータファイル(8)を検索して、アプリケーションプログラム(7)の識別情報を求め、その識別情報を用いてアプリケーションプログラム(7)を読み込んで起動し、

起動されたアプリケーションプログラム(7)は、ファイル名指定による起動であることを識別すると、そのファイル名から、データファイル(8)にアクセスし、データ本体部(10)のデータを読み込んで、処理開始可能な状態を準備することを特徴とするプログラム起動方式。

3. 発明の詳細な説明

(概要)

ファイル名を指定することにより、そのファイルを作成したアプリケーションプログラムを起動し、ファイルのデータを読み込んで、データの処理が可能な状態を決定する。

(産業上の利用分野)

本発明は、データ処理システムにおけるプログラム起動方式に関するものであり、特にアプリケーションプログラムの起動方式に関する。

〔従来の技術〕

従来のデータ処理システムにおいて、利用者があるファイルの更新処理を行なおうとする場合には、まずそのファイルの更新処理を行なうアプリケーションプログラムを起動し、次に更新を行なうべきファイルを指定して、そのファイルからデータを読み込み、それから更新処理を行なうという手順で行なうのが普通である。

第3図は、その手順を簡便化して、図で示したものである。

第3図において、1は中央処理装置、2は主記憶装置、3は表示装置、4はキー入力装置、5および6はディスク装置である。

ディスク装置5には、複数のアプリケーションプログラム α 、 β 、 γ 、…が格納されており、またディスク装置6には、複数のデータファイルA、B、C、…が格納されている。

たとえば、データファイルAの更新をする場合には、アプリケーションプログラム α が必要であるものとすれば、

①まず利用者は、キー入力装置4から、アプリケーションプログラム α を主記憶装置2に読み込む(ローディング)要求を入力する。

②その結果、OSの制御下で中央処理装置1は、ディスク装置5からアプリケーションプログラム α を主記憶装置2に読み込む。

③次に利用者は、キー入力装置4から、データファイルAを使用する要求を入力する。

④その結果、中央処理装置1は、ディスク装置6から、データファイルAのデータを主記憶装置2に読み込む。

以上のようにして、主記憶装置2に、アプリケーションプログラム α とデータファイルAのデータとが読み込まれ、更新等の任意の処理を実行することが可能となる。

〔発明が解決しようとする問題点〕

このように、従来のデータ処理システムでは、更新処理を行なうアプリケーションプログラムを起動する操作と、さらに更新すべきファイルを指

3

4

定する操作とが必要となり、利用者にとって手間がかかり、煩しいという不満があった。

〔問題点を解決するための手段〕

本発明は、上述した従来方式の問題点を解決するため、使用するファイルを指定するだけで、そのファイルを処理するアプリケーションプログラムが自動的に起動され、さらにファイルのデータも読み込まれて、いつでも処理を開始できる準備を整えるようにするものである。

第1図は、本発明の原理的構成を例示的方法により示したものである。

第1図において、1は中央処理装置、2は主記憶装置、3は表示装置、4はキー入力装置、5、6はディスク装置、7はアプリケーションプログラム、8はデータファイル、9は管理情報部、10はデータ本体部、11はプログラム起動制御部、12は制御パラメータ情報である。

ディスク装置5のアプリケーションプログラム7は、ディスク装置6のデータファイル8を作成

したプログラムであり、その更新処理にも使用される。

データファイル8は、管理情報部9とデータ本体部10とからなり、管理情報部9は、アプリケーションプログラム7がデータファイル8を作成したときに同時に作成され、ファイル名とともに、そのアプリケーションプログラム7の種別(識別名-ID)情報を含む。

プログラム起動制御部11は、利用者がキー入力装置4からファイル名を入力すると、ディスク装置6を検索し、管理情報部9に同一ファイル名をもつデータファイル8を検出する。次に管理情報部9に含まれるアプリケーションプログラムの種別情報を取り出し、ディスク装置5から、該当するアプリケーションプログラム7を、主記憶装置2に読み込む。

アプリケーションプログラム7は、ファイル名指定による起動を条件として、そのファイル名のデータファイルからデータを読み込む機能を含んでいる。

5

6

プログラム起動制御部11は、このとき、ファイル名指定による起動であること、およびファイル名を、制御パラメータ情報12に設定して、アプリケーションプログラム7に渡し、プログラム起動を行なう。

起動されたアプリケーションプログラム7は、制御パラメータ情報12を参照して、ファイル名指定による起動であることを識別すると、ファイル名を用いてディスク装置5をアクセスし、データファイル8のデータ本体部10を、主記憶装置2に読み込む。

このようにして、アプリケーションプログラム7によるデータファイル8のデータ更新処理の準備が完了する。

(作用)

第1図に示す本発明の構成により、利用者は、ファイル名を入力する操作を行なえば、後はシステム側で、プログラム起動制御部が必要なアプリケーションプログラムを読み込んで起動し、次に

起動されたアプリケーションプログラムが、処理すべきデータを読み込んでくれるため、利用者の負担は軽減される。

(実施例)

第2図において、6はディスク装置、7はアプリケーションプログラム、8、8'はデータファイル、11はプログラム起動制御部、13、13'は表示装置の異なる画面、14は起動メニュー・ファイル一覧、15はコマンドガイド領域、16はウィンドウ制御部、17、18はウィンドウである。

この実施例は、マルチウィンドウ表示処理方式をとっているデータ処理システムにおける処理例を示している。

画面13は、ファイル名入力画面となるもので、利用者は、起動メニュー・ファイル一覧14を見て、更新処理をしたいファイル名を、マウスカーソル等を用いて指定する。なお、ファイル名は複数個指定することができる。

7

8

プログラム起動制御部11は、指定されたファイル名をもつデータファイル8、8'をアクセスし、それらの管理情報から、更新処理用のアプリケーションプログラム7を識別し、第1図で説明したように、主記憶装置へ読み出して起動する。またこれと並行して、ウィンドウ制御部16を起動し、必要とする個数のウィンドウを生成させる。たとえばファイルを2つ指定されていれば、図示のように2つのウィンドウ17、18が生成される。

アプリケーションプログラム7は、指定されたファイル名に基づいて、データファイル8、8'をアクセスし、主記憶装置にデータを読み込む。その結果、ウィンドウ17、18には、それぞれ指定されたファイルのデータが表示され、処理を開始できる状態となる。

(発明の効果)

以上述べたように、本発明によれば、アプリケーションプログラムの起動やデータの読み込みが、ファイル名の入力に基づいて自動的に実行で

きるため、データ処理システムが初心者にも使い易くなり、また作業が能率化される利点がある。

4. 図面の簡単な説明

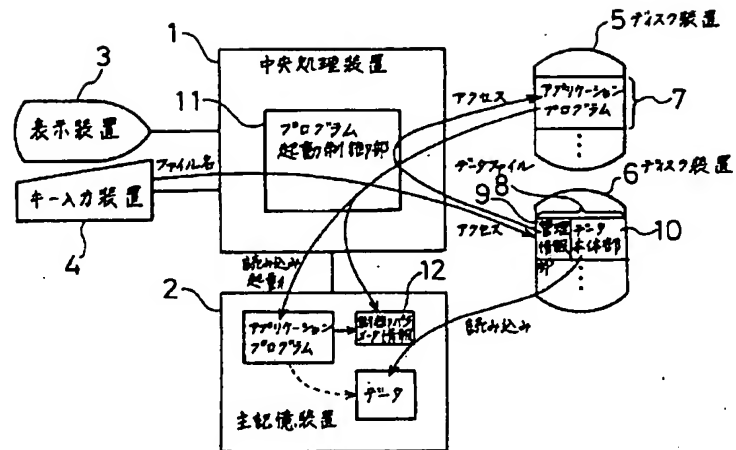
第1図は本発明の原理的構成図、第2図は本発明の1実施例の構成図、第3図は従来のプログラム起動方式の説明図である。

第1図中、

- 1：中央処理装置
- 2：主記憶装置
- 3：表示装置
- 4：キー入力装置
- 5、6：ディスク装置
- 7：アプリケーションプログラム
- 8：データファイル
- 9：管理情報部
- 10：データ本体部
- 11：プログラム起動制御部
- 12：制御パラメータ情報

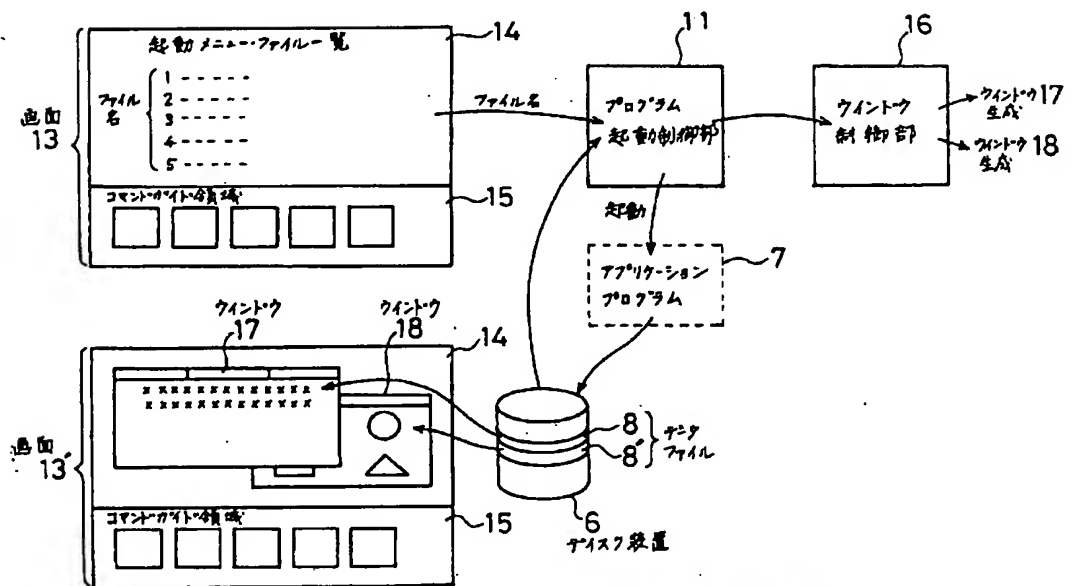
9

10



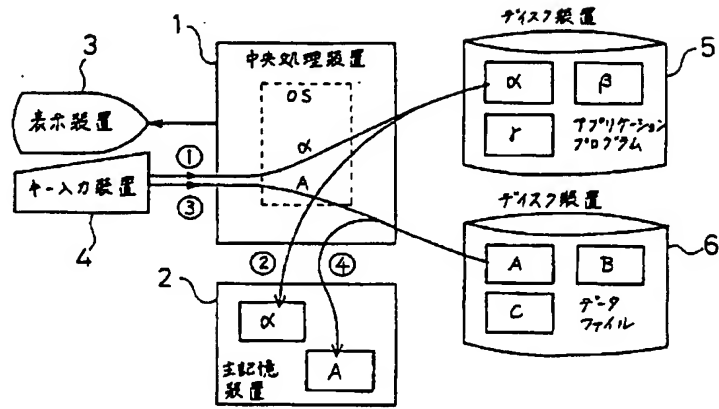
本発明の原理的構成

第 1 図



本発明の1実施例構成

第 2 図



従来のプログラム起動方式
第 3 図